



学

藝

令和4年(2022年)12月 / 第146号

— 特集：支部からの報告、小金井祭 —



令和4年度 第3回支部長会 11月11日(金)



支部長挨拶

◇ 巻頭言	理事長あいさつ……………	理事長 森 富子…	2
	最近思うこと……………	副理事長 篠原 敦子…	3
	結(ゆい)～「つながり」と「絆」～……………	副理事長 稲葉 孝之…	3
◇ 支部紹介	新宿区・江東区・目黒区・世田谷区・北区・杉並区 三鷹市・昭島市・日野市・東大和市・清瀬市・三宅村……………		4
◇ 研究発表のお知らせ	千代田区・台東区・府中市・小平市・附属学校と幼稚園……………		10
◇ サークル等活動紹介	第5回 男子・女子卓球部……………		15
◇ 副校長の活躍	豊島区・東久留米市……………		16
◇ 若手教員の活躍	港区・西東京市……………		17
◇ 本部だより……………	総務部・会計部・研修部・調査部・広報部・お知らせ……………		18
◇ 小金井祭報告……………			20



「身近な自然から思うこと」

理事長 森 富 子

十月のある夕方、自宅の窓から、富士山の頂上付近から空に斜めに黒い筋を見たとき、びっくりして思わず外に出ました。富士山から煙が出ているように見えたのです。地震もなかったですし、音も聞こえなかったのですが、富士山がもしやとまで感じたことでした。実はそれは関東地方の薄雲と富士山と太陽の沈む位置関係でできる富士山の影だということでした。十一月の夜は、皆既月食と天王星食の現象を観察しました。特に天王星食は約四百年に一度などと言われてしまうと思われないわけにはいかないという心境でした。天候もよく肉眼でも皆既月食を見ることができました。昔は、これらの天体現象から、農作業の予定を立てたり四季の変化をつかんだりしていたのだと改めて星や月の動き、自然現象に思いを馳せました。現在は、スマホ等でいつでも天体現象が観測できますし、即時にパソコンで調べられる便利な世の中です。小・中学校でも一人一台のタブレットはかなりの勢いで浸透していて、子供たちは器用に操作をして授業中に活用しています。すごいなあ、と思う反面、何か違うなあとも思ってしまうのは、古い人間の証拠でしょうか。小中学生に限らず、大学生を相手に日々過ごしていますと、コロナ禍で約三年間を過ごしてきた学生の中には、人との関わりをあまりもたずに過ごしてきた学生もいて、コミュニケーション不足を感じることもあります。長年の学校生活の中で、研究授業をたくさんしてきましたが、同じくらいスポーツに親しんだり、授業後の時間を大切にしたりして学校内の人間関係づくりをしてきました。それらの会合の中で、怖そうに見えた先輩の失敗談などを聞いて、ほっとしたことが数多くありました。このような人との関わりが少なくなってきたこれからの学校社会は今後どうなっていくのかな、などと余計な心配をしています。せめて東京学芸大学同窓会の仲間の中では、少しずつでもいいので教員間の交流を増やしていきたいと思っています。

新型コロナウイルス感染者数の第八波がやってきました。心配です。東京学芸大学同窓会新年祝賀会を三年ぶりに実施する予定だからです。令和五年一月に行う予定の新年祝賀会は例年とは形を少し変えて対面で実施することとしました。会場では感染対策をしっかりとしていただき、時間は日曜日の昼の時間に設定いたしました。大学からは、学長様をはじめ関係者の方々にもご出席をいただく予定です。詳しくは、ホームページなどでご確認ください。会員の皆様には、支部長を通してお知らせをさせていただきます。一年に一回、同窓生の多くの皆様と語り合うこの会は、同窓会のイベントの中でも大変重要な行事です。できるだけ多くの皆様の参加ができますよう、理事会等で話し合いを重ね、総務部を中心に会計部や調査部からの情報をもとに各部の部長、部員の方がいろいろアイディアを出し合い進めております。皆様のご参加を心よりお待ちしております。

現在の東京学芸大学の学生のために、就職相談「万ゼミ」という講座を三年生中心に同窓会の出身の講師で開催しています。研修部の皆様のご尽力で作成され学生に配布した「子獅子」を教科書にしています。今年度も約五百名の応募がありました。教員を希望する東京学芸大学の学生が増えていくことは大変嬉しいことです。

さらには、大学が企画運営している事業や、各学校・幼稚園で実践されることで、東京学芸大学同窓会として何かお役に立てることがありましたら、その橋渡しをしていきたいと思っております。これからも広報誌「學藝」やホームページなどをお読みいただきまして、ご意見ご要望などをぜひお聞かせください。

最近思うこと

副理事長 篠原 敦子

皆様にはご健勝にてお過ごしのことと存じます。日頃より一般社団法人東京学芸大学同窓会活動にご協力を賜り誠にありがとうございます。

さて、学校の教育活動も通常に近い形で行われるようになってきました。コロナ感染者数の増減は、相変わらず気になるところですが、その中でも、「ウィズコロナ」で、感染対策をしっかりとり進められているのは、嬉しいことです。子供たちも、様々な学校行事を経験して、更に成長していくものと思います。

最近の教育界の課題は、教員不足だと言われています。縁あって、学校に伺うことがあります。副校長先生が自席にいない学校が多くなりました。電話をしても、「今、〇年〇組の教室に行っています。戻るのは、放課後です。」とのお返事です。お休みされている先生の代替の先生が見つからず、副校長先生が行かざるを得ない状況のようです。退職して四年になる私の所まで、「今、産休代替教員を探しているのだけれども、できる人の心当たりはないですか？」と電話が来る始末です。算数少人数や英語専科の教員が担任に回され、その穴は担任がカバーするという方法で対応している状況があるようです。新規教員採用選考の倍率

は、どんどん低くなり、期限付き合格者も五月の連休頃には、みんな捌けているという状況だとか。どうなってしまうのでしょうか？

教員は、魅力ある仕事ですよね。できなかつたことができる喜びを一緒に感じ、子供たちに囲まれて成長を共に楽しみながら毎日を過ごすことができ、こんなやりがいのあるステキな仕事は他にはないと思っています。働き方改革が進められ、ICTによって仕事の効率化も図られてきています。でも、毎年たくさんの方の若い方の退職や転職があるのは、どこかに、課題が潜んでいるからでしょうか。残念なことです。何か、できることがないかと思案するばかりです。

同窓会では、採用試験対応講座（万ゼミ）等で教員を目指す学生の支援のお手伝いを行っています。毎年、たくさんの方が、「教員になりたい」という夢に向かって、頑張っています。第三十一回教師力養成特別講座が始まりました。たくさんの方が申し込みをされます。論文を作成したり、お休みの日に、それこそ一日中、面接の練習を行ったりします。現場を去った私は、夢に向かって頑張っている学生のお手伝いをしなくてはと思うこの頃です。

結（ゆい）

「つながり」と「絆」

副理事長 稲葉 孝之

合掌造りの美しい景観が評価され、一九七六年に国の重要伝統的建築物保存地区として選定され、一九九五年にはユネスコの世界遺産（文化遺産）登録された白川郷。

この白川郷の集落での生活は、昔から個々の家の扶け合いと協力によって営まれ、維持・存続が図られてきました。集落が山間部に位置し、とりわけ冬は雪に閉ざされ、各集落が孤立を余儀なくされる厳しい自然条件に置かれた白川村のような山村にあっては、「相互扶助」の関係が築かれてきました。

その中で、白川郷では「結（ゆい）」と呼ばれる労働交換が各家の生活維持や生産支援のために大切な役割を果たしてきました。

「結」によって行われるのは、田植えや稲刈り、養蚕、材木の伐採、合掌造りの建設と維持などで、生産活動に関連した仕事です。その中で最も大きな仕事は、茅葺き屋根の葺き替え作業なのです。この作業は、村人総出で行います。ある者は、茅を刈り取り、ある者はそれを束ね、ある者は屋根に上り、ある者は全体の流れを指揮する。食事の支度をしたり、お茶を用意したりして、大人も子供も女も男も、みんなの力を合わせて行っていくのです。

そこには、お金のやり取りはありません。このような相互扶助の精神、人々の扶け合いの心が白川郷の集落の美しさ、素晴らしさに表れているのです。また、この作業は、村の生活の知恵を伝える貴重な場、機会となっているのです。

この三年間、新型コロナウイルス感染症の拡大により、私たちの生活様式が大きく変わらざるを得なかった中で、学大同窓会の活動も十分な形で運ぶことが難しい状況でした。

しかし、このような時代だからこそ、改めて同窓生の繋がりと結びつきに感謝し、先輩の皆様から脈々と受け継がれてきた素晴らしい伝統を紡いでいくことが重要と考え、各部の皆さんが工夫をし、挑戦をしながら活動を続けてきました。

学大同窓会は、これからも単なる卒業生の集まりではなく、「結（ゆい）」を合言葉にして、会員の皆さんが力を合わせ扶け合うことの大切さ、共同体の維持・運営に欠かせない「つながり」や「絆」を確かめ合うことのできる心のよりどころとなっていきたいのです。

そして、「結」の心で守り継いでいきたいのです。

新宿区の紹介

新宿支部長 橋本 則子

(新宿区立落合第二小学校)

新宿区には小学校二十九校、中学校十校、養護学校一校、幼稚園十四園、子ども園三園があります。

新宿区は、都庁をはじめとした高層ビル群、歌舞伎町のような繁華街がイメージされがちですが、新宿御苑や戸山公園など緑豊かな場所や住宅街が広がる場所もたくさんあります。

今年度はコロナ禍においても、感染防止に気を付けながら、日常の生活に戻していこうという方針が反映され、地域活動や教育活動が少しずつコロナ前のように行われています。

二年間中止となった小学校の宿泊行事も、PCR検査と抗原検査をするなどできる感染防止を徹底して実施しました。その他の合同の行事等も行われています。

新宿区は他区に先駆けてICT機器の活用に取り組んできましたが、令和三年度より児童一人一台のタブレット端末が配られ「新宿区版GIGAスクール構想」として効果的にタブレット端末を活用した授業改善・個別最適な学び等に取り組んでいます。

初年度は、子どもたちがタブレット端末に慣れ親しむことから始めまし



道徳でのタブレット端末の活用

た。今では、日常的にどの教科でも子どもたちがタブレット端末を授業で活用している姿が見られます。使う場面や内容を精査し、より効果的な使い方ができるように各学校で模索しています。

新宿区では、校長会や副校長会等で飲食を伴う会合はまだ中止とされてい、東京学芸大学の新宿支部としても、なかなか集まるのが難しい状況です。管理職試験の面接練習も研修部を中心として少人数で行いました。もとより校長間ではチームワークのよい新宿支部ですので、心置きなく集まれる日を楽しみにしているとあります。

江東区の紹介

江東支部長 大塚 寿江

(江東区立川南小学校)

江東区には区立小学校四十五校、中学校二十三校、義務教育学校一校、幼稚園十八園があります。支部の会員は約二百名、管理職は三十五名です。

江東区と言えば、昨年はオリンピック・パラリンピックで熱くなりました。江東区内の十か所の競技会場で、オリンピック十二競技、パラリンピック八競技が実施されました。区内の有明アリーナが競技会場となった「ボッチャ」は、江東区全校で実施しています。令和五年一月には、有明サブアリーナで各小学校が参加する「KOTO☆ボッチャ大会」も開かれます。また、江東区出身のパラカヌー選手である瀬立モニカ選手による「心の教育授業」を中学校で実施し、障害者理解や多様性、努力の大切さなどを学ぶ機会が提供されます。「スポーツと人情が熱いまち江東区」というフレーズが表すように、江東区ならではのオリンピック・パラリンピックのレガシーを継承していく気運が区全体にあります。

そんな江東区ですが、思うような活動ができない中で今年度嬉しかったのは、研修テキスト「獅子四十三集」の頒布が区内で大変スムーズだったこと

です。学芸大学同窓会の会員はもちろん、会員以外にも、「自分は学大卒ではないが、このテキストは大変勉強になり、自分もこれまでに役に立った。ぜひ自分の知り合いにも分けたい。」という方も複数いて、「獅子」のファンが結構いるのだな。」と実感しました。今年度はリニューアルしてさらに充実した研修テキストになっていて、区内で薦めた甲斐がありました。本部に追加注文したほどです。

江東区は、教育長も、指導室長も学大卒です。これからは江東支部は「人情に熱いまち 江東」で繋がって参りたいと思っています。



地域で行われたボッチャ大会

目黒区 の 紹介

目黒支部長 西田友幸

(目黒区立目黒中央中学校)

令和四年四月現在、区立小学校は二十二校、区立中学校は九校、幼稚園こども園が三園あります。支部の会員は現職百十一(管理職二十二・教委五)名、終身会員は四十二名です。

目黒区は、武蔵野台地の東南部に位置し、目黒川と呑川の谷が北西から南東に向かい、二十から三十メートルの深さのとい状の谷をつくっています。だから意外と坂の多い地域です。また、神社仏閣を始めとする観光スポットもたくさんある土地柄です。

目黒というと、まず「さんま」が思い浮かぶ人も多いでしょう。落語で語り継がれている将軍のお鷹狩りのお話です。「鷹番」という地名が残っていますし、舞台となった茶屋の子孫も在住していると聞いています。最近では、中目黒周辺のライトアップされた目黒川の桜は有名です。

江戸の時代は景勝地であったのどかな目黒ですが、現在では新しい時代にふさわしい次世代の学校教育(スマートスクール)の実現を目指すため、令和四年三月に「MEGURUスマートスクール・アクションプラン」を策定して取り組んでいます。特に、学習用情報端末iPadは、LTE通信を生

かした「いつでも」(Anytime)、「どこでも」(Anywhere)、「だれでも」(With anyone)利用できる3Aのコンセプトに基づき、学習活動における積極的な活用を通し、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の実現に向けて各校において取組を進めています。

目黒支部としての活動は、春に紙面総会を実施し、今年度の事業計画等を提案しましたが、今ひとつ感染症の収束が見込まれず研修会等も実施できていません。しかし、目黒区では学習用情報端末はすべての教員に配付されているので、オンライン等を用いた支部内の交流を検討していきたいと考えています。



目黒区報より

世田谷区 の 紹介

世田谷支部長 戸田靖

(世田谷区立希望丘小学校)

世田谷区は人口およそ九十三万人と二十三区で最も多く、区立小学校六十一校のうち、児童数千人を超える学校が三校、九百人を超える学校が四校あります。中学校は二十九校、幼稚園は認定こども園一園を含め八園です。支部の会員は二百六人、管理職は四十二人です。

世田谷区の特徴は「地域で子どもを育てる」の方針のもと、すべての公立小中学校が地域運営学校(コミュニティスクール)であることです。中学校の学区を中心とした中学校一校、小学校数校で組織する「学舎・学び舎」が二十九あります。学舎・学び舎では合同で「あいさつ運動」や「小六見学会」を行い、学期一回「学び舎の日」を設定し、互いに授業参観を行ったり情報交換をしたり、学習や生活様式に関する共通のスタンダードを設定し、取り組んだりしています。こうした「世田谷九年教育」に加え、幼保小中の連携を図る「せたがやイレブンプラス」、さらにキャリア教育の推進を目的に「キャリア・未来デザイン教育」に学舎・学び舎で取り組んでいます。

こうした方針から、地域の環境や人材も大切にしています。下北沢や三軒茶屋のような大きな繁華街もあります

が、二十三区内で唯一の溪谷(等々力溪谷)や烏山地区の寺町、岡本家園や次大夫掘公園などの原風景も郷土の歴史や文化を学ぶ貴重な資源としています。

第2次世田谷区教育ビジョン(令和四・五年度)では、「一人一人の多様な個性・能力を伸ばし、社会をたくましく生き抜く力を、学校・家庭・地域が連携してはぐくむ」ことを基本的な考えに据え、「地域との連携・協働による教育」、「乳幼児期からの小・中学校における質の高い教育の推進(学習内容及び学校経営・教員支援)」など八つの施策を柱に推進しています。



地域のりんご園での体験学習

北区

北区内の公立小学校は三十四校、公立中学校は十二校、区立幼稚園が四園（こども園一園）あります。同窓会北支部は、校長、副校長十八名をはじめ多くの会員の先生方に支えられて活動しています。

北区は、交通の利便性や住居環境から最近では住みやすい街としても上位にランキングされるようになりまして、西が丘にはトップアスリートのための大規模なスポーツ施設「味の素ナショナルトレーニングセンター」や「国立スポーツ科学センター」があり、この周辺では、しばしばトップアスリートを見かけることがあります。また、桜の名所である飛鳥山公園内には、令和六年に一新する一万円札の肖像となる渋沢栄一の邸宅がありました。現在は渋沢資料館として、渋沢栄一翁の生涯と業績に関する資料が展示されています。昨年度、北区ゆかりの偉人渋沢栄一翁についての副読本も作成され、小学校三年年から六学年までの全児童に配られました。

北区の教育の特色の一つが学校ファミリー構想です。通学区域の重なる幼稚園・こども園・小学校・中学校からつくる近隣複数校園のネットワークにより、小中一貫教育の推進や幼稚園や

北支部長 齊藤浩雄
(北区立東十条小学校)

小学校間の連携を深めています。十二のサブファミリー（中学校一校と複数の小学校や幼稚園の組み合わせ）ごとに、授業交流や教員研修の合同実施、児童生徒の学校行事の交流等、様々な連携・交流活動を実施しています。また、令和六年度には、北区で初めての義務教育学校（小中一貫校）としての都の北学園が開校予定です。

同窓会の活動については、他支部と同様、支部総会や歓送迎会は行われないう状況です。今後は状況を見て、再び親交を深めていきたいと思えます。今後とも北支部の活動にご支援を賜りますようお願い申し上げます。



渋沢資料館

杉並区

杉並区には、子供園六園、区立小学校四十校、区立中学校二十三校あります。そのうち二校が小中一貫校です。支部の会員は二百七十二名、管理職は四十名です。支部総会をオンラインで開くとともに、各校の協力で支部の会員名簿を作ることができました。

杉並区としての今年度の一歩のトピックは「杉並区教育ビジョン2022」が策定されたことです。これは、概ね十年程度を期間とする、区民と区にとつての杉並の教育の基本的な考え方を示すものです。

今回のビジョンでは、杉並区が大切にしたい教育として「みんなのしあわせを創る杉並の教育」を掲げています。人は誰もが、しあわせになりたいという願いをもっていることを前提として、「学び合い信頼をつくり共に生きる」「ちがいを認め合い、自分らしく生きる」「誰もが創り手として生きる」ことを大切にしようとしています。

杉並らしいなと思うのはその策定過程です。審議会の委員の方々による意見交換だけでなく、子どもたちからも「これからの杉並の教育」について意見を集め、ビジョンに反映させました。例えば、子どもたちに「もしあなたが校長先生だったら、どんな学校をつく

杉並支部長 小原潤
(杉並区立久我山小学校)

りたいですか」といったアンケートをネット上でとり、四百五十九名から回答を得ました。

また、ビジョン策定後も教育長はじめ区教委の幹部が、学校に向き子どもたちと教育ビジョンに関する意見交換会を行っています。そこでは「みんなのしあわせとは?」「みんなのしあわせを創るとは?」について、膝を交えて話し合いました。大人も子どもも自分のおもいを伝えるとともに、相手のおもいをしっかりと受け止めている姿が見られました。子ども、保護者、区民、区教委と共に「みんなのしあわせ」を創っています。



ビジョン意見交換会の様子

三鷹市の紹介

三鷹市は東京都のほぼ中心に位置し、井の頭公園や野川公園など緑豊かな公園に囲まれ、太宰治など多くの作家が暮らした「緑と水、文化の香りにあふれるまち」です。また「三鷹の森ジブリ美術館」があることでも有名です。

小学校十五校、中学校七校が七つの小・中一貫校を構成し、「コミュニティ・スクール」を基盤とした小・中一貫教育を行っています。平成十八年度に開園した「にしみたか学園」を皮切りに、平成二十一年度までに七学園すべてが開園しました。すべての学園が十年以上の実践を積み重ね、学校・家庭・地域が協働して子供の教育を行っています。昨年度には三鷹市のこれまでの取組を全国に発信した「三鷹教育フォーラム二〇二二」「全国コミュニティ・スクール研究大会 in 三鷹」をオンラインで開催しました。

三鷹らしい教育の実現を掲げ、「三鷹市教育ビジョン二〇二二」には「人間力」と「社会力」を兼ね備えた子供を育成し、目指す子供像を達成するために施策の柱となる「五つの施策目標」を示し、その具体的な施策事業として「二〇の重点施策」を設定しています。

その中で三鷹市のこれからの教育をさらに進めていくために、学校や子供たちを縁としたつながりである「ス

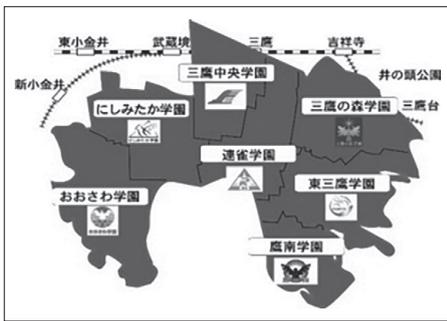
三鷹支部長 清水 晃

(東三鷹学園三鷹市立北野小学校)

クール・コミュニティの創造」、学校施設が地域の共有地「コモンズ」として地域人財や資源が集う場所となることを目指す「学校三部制」に向けた取組などを推進しています。

また、「障がいのある子もいない子ども学校・家庭・地域の力を得て次代を担う人として育っていくことを支援すること」を目的とした「三鷹市教育支援プラン二〇二二」の推進をしています。今年度新たに通級支援教室の拠点校を二校新設し、七学園すべてに小学校の通級支援教室の拠点校を設置しました。

これからも七学園が協働しながらも切磋琢磨して、三鷹市の子供たち、地域のために前進していきます。



7つの学園
7つのコミュニティ・
スクール委員会

昭島市の紹介

「水と緑に恵まれたまち 昭島」

昭島市は、東京都のほぼ中央にあり、南に多摩川、北に玉川上水が流れ、豊かな自然環境に恵まれています。この多摩川の河原で、昭和三十六年、全長十六mの新種のくじらの化石が発見されました。アキシマクジラ「エスクリクテイウス アキシマエンシス」と名付けられ、市内の色んな場所に、くじらの絵が描かれたマンホールや街灯、クジラ祭りなどアキシマクジラをシンボルにしたものがたくさんあります。

また、昭島市は、「水がおいしいまち」としても有名です。昭島市の水道水は、都内で唯一深層地下水一〇〇%を誇る水道水です。市内四か所の駅前には、無料の給水スポットもあります。

市民図書館、郷土資料室、教育センター、子ども家庭支援センターなどが連携した教育福祉総合センター（アキシマエンシス）は、昭島市の教育福祉の拠点となっています。中でも市民図書館は、エントランスに実物大のアキシマクジラのレプリカが展示されており、広々とした空間で、毎日多くの人を訪れています。児童書コーナーも充実していて、人気スポットです。

市内には、小学校十三校、中学校六校あり、八二〇〇人余りの児童・生徒

昭島支部長 森本 弘子

(昭島市立共成学校)

が在籍しています。教育委員会の目指す「楽しい学校づくり」をテーマに、次の四つの施策を市内全校が連携しながら、各学校で特色ある教育活動を工夫しながら推進しています。

「確かな学力の定着」：ICTの活用がより推進され個別最適な学び・協働的な学びの実現、読書活動の推進「豊かな心の醸成」：人権・道徳教育、体験活動の充実「健やかな体の育成」：本市オリジナルの「元氣アップガイドブック」の活用による体力向上・健康増進 食育の取組「輝く未来に向かって」：幼保小中の連携の充実、日本の伝統・文化に関する教育、キャリア教育等の推進

ふるさと昭島の自然や文化を愛し、社会に主体的に貢献できる「たくましい昭島っ子」の育成を目指します。



アキシマエンシスの見学

日野市の紹介

日野市は、ＪＲ中央線日野駅と京王線高幡不動駅の沿線に位置し、土方歳三（新選組）や観光名所となっている高幡不動尊と関わりの深い土地です。また、市内には、多摩川と浅川が流れ、自然が豊かなところです。

現在市内には、小学校が十七校、中学校が八校あり、全ての小中学校で自校式の給食を提供しています。日野市は地産地消を目指しており、各校の栄養士さんと調理員さんたちが工夫を凝らしながら、毎日温かくて美味しい給食を作ってくれています。自然が豊かで子育てがしやすいこともあり、年々児童・生徒数が増加傾向にあります。

日野市の教育は2019年に策定した「第3次日野市学校教育基本構想」に基づき、対話を重視した教育活動を進めています。特に、子供がわくわくするような授業づくりを推進するため、「わくわくプロジェクト」を立ち上げ、軽井沢風越学園（私立の義務教育学校）に教員を二年間派遣しました。また、昨年度は、市内小中学校合わせて全二十五校（各校一名）の教員と市の教育委員会が現地視察を行い、「自然の中で子供の自由を尊重した教育活動」を直に見学することができました。こうした研修を通し、各校の授業の雰

日野支部長 但野 嘉美

（日野市立七生中学校）

囲気は、教師主体から児童・生徒主体の授業に変わってきており、成果を上げています。

さらに、日野市は、国から「SDGs 未来都市」に選定され、市全体で「新たな地域作り」に取り組んでいます。その活動の一環として、宮城県の気仙沼中学校と連携し、今年の八月には、代表生徒（日野市内の中学生十七名）が現地を訪れ、「新たなまちづくり」について、気仙沼の中学生と直接話し合いを行いました。日野市では、こうした対話を重視した教育活動を今後も大切にしていくと共に、現在「第4次日野市学校教育基本構想」に向けた準備を進めています。



R4気仙沼の中学生と記念撮影

東大和市の紹介

本市には、小学校が十校、中学校が五校あります。森永乳業の工場や新青梅街道沿いに大型量販店が建ち並んでいる一方、市の北部には狭山丘陵と多摩湖があり、住宅地の中に狭山茶の畑が広がる地区です。

本年度の本市の教育最重点項目は、次の二点です。

- ① GIGAスクール構想の一層の推進
- ② 働き方改革の推進

GIGAスクール構想の一層の推進については、市内各校のICT推進担当教員で構成する委員会が中心となり、児童・生徒のICTリテラシーの育成と活用を計画的に進めています。

昨年度は市内の全児童・生徒に一人一台端末を配り、まずは「慣れ親しむ」ことに重点をおいた活用をしました。本年度はその上に立ち、児童・生徒が行う学習とICTとの関連性をよく吟味した上で効果的な活用方法を各校の実践事例を情報共有しながら模索しています。週時程の変更を行い、教員の研修時間を毎週確実に確保できるようにした学校もあります。

働き方改革の推進については、月当たりの時間外勤務八十時間を超える教員ゼロの数値目標を設け、それを具現化する取組を校長会が中心となり行っ

東大和市支部 横尾 康幸

（東大和市立第四小学校）

ています。

小学校では本年度の校長会の研修内容を働き方改革の推進にしました。改革の柱を「業務の改革」「組織の改革」「意識の改革」の三本とし、市内各校で情報交換しながら取組を進めています。このような取組の成果もあり、小中学校とも時間外勤務の時間を確実に減少させています。

また本市には、震災建造物である旧日立航空機株式会社変電所があります。無数の弾痕の残る外壁を見たり建物内部に入ったりとできるように改修工事を行いました。戦争の悲惨さを今に伝える建造物の積極的活用を図っています。



戦争の跡が残る変電所の見学をする子供たち

清瀬市の紹介

清瀬市は、東京都の中央北部に位置し、埼玉県と隣接しており、東京一の出荷量を誇るにんじんをはじめ、市内には農のある風景が残っています。そして、清瀬市といえば「ひまわりフェスティバル」を思い浮かべる人が多くいるのではないのでしょうか。コロナ禍のため、このところ実施できていませんが、毎年八月には、二万四千平方メートルの敷地に約十万人のひまわりが咲き誇り、市内外から多くの観光客が訪れます。

清瀬市は、人口は約七万五千人、現在市内には、公立小学校が九校、中学校が五校あります。

市の特色ある教育活動としては、「石田波郷俳句大会」、「赤ちゃんの力プロジェクト」が挙げられます。

「石田波郷俳句大会」は、清瀬に関わりが深く、現代の俳句文学に偉大な功績を残した俳人石田波郷をたたえ、名前を冠にした全国規模の大会です。毎年、全校において、俳句教室が開かれ、児童・生徒は、十七文字に思いを込めて投句します。また、命の尊さを自分事として考えるために、NPO法人の方々のご協力のもと「赤ちゃんの力プロジェクト」を全校で実施したり、一月には「命の教育フォーラム」を実施したりしています。今はコロナ禍の

清瀬支部長 寺 井 俊 敬

(清瀬市立芝山小学校)

ため、市内のお母さん、赤ちゃんと接することはできませんが、自分自身の成長について学び、リモートでお母さん、赤ちゃんと結び、児童・生徒は命の大切さを学びます。他にも、市立図書館と連携して、「図書館を使った調べる学習コンクール」の募集を行ったり、毎年十月の「清瀬教育の日」には、「ビブリオフォーラム」を実施したりしています。

清瀬支部には、校長四名、副校長四名、指導主事一名の同窓生がおります。清瀬支部としては、コロナ禍でなかなか同窓会活動はできておりませんが、同窓の輪を大切にこれから徐々に活動を広げていきたいと考えます。



石田波郷俳句教室の様子

三宅村の紹介

三宅島と御蔵島からなる三宅村には、三宅島に小学校、中学校が各一校、都立三宅高校、御蔵島に併設の中学校が各校あります。三宅島と御蔵島は、人々のつながりが深く、交流も盛んです。学校教育においても、互いのよさを取り入れた教育活動を進めるよう努めています。月例の校長連絡会では、各校の校長が参集し、児童・生徒の健全育成について、ICT教育の推進について、コロナ禍における行事運営の在り方についてなど、校種を超えた協議、情報交換を行っています。

三宅村における保小中高一貫教育

三宅村では、個性と創造力を伸ばし、社会の変化に対応しながら国際社会で活躍する人材、島の豊かな自然を継承し、文化の発展に貢献する人材の育成を目指して、保小中高一貫教育を推進しています。

- 「学力向上」「健全育成」「キャリア教育」の三分科会で協議を行うことで、
- 校種を超えた授業参観、研究協議
- 上級学校の授業体験、出前授業
- あいさつ運動
- キャリア・パスポート「みやげつ子ポートフォリオ」の共有などの具体

三宅支部長 池 田 吉 弘

(三宅市立三宅小学校)

的な取組が進んできました。また、小中合同運動会、小中高合同マラソン大会、保小中高合同音楽会、作品展などの行事は、年齢を超えた交流が深まるとともに、子供たちが村民に大切に見守られながら成長していることを実感する場となっています。

島に赴任する教員の多くは採用後初異動の若手であり、大学の同窓生も複数在籍しています。生活環境の厳しさはありますが、子供たちの成長に密接に関わることで、島民の教育のやりがいを感じることができ、教員としてさらに成長することができるよう指導・支援していきます。



島民の暮らしを支える定期船橋丸

令和3・4年度 千代田区教育委員会 研究協力校
みんなでつくる「わくふむ」授業
 ～つながる・ひろがる・ICT～ 算数・理科の授業を通して

○目指す児童像

- ・友達と**学ぶ楽しさ**を感じながら、自らの**学びをアップデートし探究を続ける**児童
 わくわく ふむふむ

○「わくふむ」授業とは

- ・期待や見通しをもって授業に臨み、友達の考えを理解した上で自分の考えをもてる授業。
- ・全員でのやりとりを通して、考えの広がりや深まりを実感できる授業。

児童一人一人の個を生かして
 全体の学びを深める

協働的な学びが
 個の学びの深まりを生む

○発表会当日の流れ

【13時45分～14時30分】

公開授業（全19学級21授業）

1年	算数	かたちあそび
2年	算数	図をつかって考えよう
3年	理科	じしゃくにつけよう
4年	理科	水のすがたと温度
5年	算数	割合をグラフにして調べよう
6年	理科	水溶液の性質とはたらき

【15時00分～】

研究発表

【15時35分～】

パネルディスカッション

大妻女子大学 石井 雅幸 教授

創価大学教職大学院 渡辺 秀貴 教授

研究発表会 令和5年2月17日（金）

千代田区立麴町小学校 校長 中村 裕子

東京メトロ有楽町線麴町駅・東京メトロ半蔵門線半蔵門駅より徒歩5分

JR 中央線 四ツ谷駅より徒歩13分

令和3・4年度 府中市教育委員会研究協力校

「対話的に学び合う子供の育成」

～『読むこと』における深い学びを目指して～

本校では令和元年度まで道徳の授業の中での学び合いをテーマに研究を進めてきました。全国学力学習状況調査において道徳の授業の中で考えを深めたり友達と話し合ったりしていると答えた児童が全国平均を15ポイント以上上回るなど、一定の成果が見られました。

同調査等で本校の課題を探る中で、文章を読み取る力を高める必要があることが分かっ

研究の内容

1. 自分の考えをもつための手だて

- 具体物の提示
- サイドラインの活用
- ワークシートの工夫

2. 対話を生み出すための手だて

- 必然性のある課題設定
- 意図的なペア、グループづくり
- ICT 機器の活用

3. 言語能力を育む取組

- 言葉の木、辞書の活用
- 学年掲示板
- 読書ノート

てきました。そのために教師の特に国語科の授業力向上を図ろうと、令和2年度から「読むこと」を中心に研究に取り組み始めました。

令和3年度より市研究協力校として2年間の研究の機会をいただき、都教職員研修センター教授の篠原敦子先生、明星大学教授の白石範孝先生、ご講演もいただき興水かおり先生はじめ、多くの先生方からご指導いただきながら「読むこと」の力を高めることはもちろん、本校でこれまで大切にしてきた子供相互の学び合いを授業の中で展開し、友達と学ぶよさを実感し、自分に自信を付け、授業の中で笑顔があふれるような子供を育てようと、日々授業実践を進めています。

当日までに感染症の状況が落ち着き、多くの皆様に参加いただければと願っております。学大同窓会の皆様におかれましては、ぜひご指導いただきたくご案内申し上げます。

研究発表会 令和5年1月20日（金）

13:15 受付開始 13:35 授業公開（全学年公開） 14:45 研究発表
講演 一般財団法人言語教育振興財団 理事・アドバイザー

興水 かおり 先生

府中市立小柳小学校 校長 堀越 新一

京王新宿線多磨霊園駅・武蔵野台駅 徒歩 13分

令和3年度・4年度小平市教育委員会研究推進校
 令和4年度国立教育政策研究所教育課程実践検証協力校

**子どもが「楽しい・もっとやりたい・できた」を感じられる体育学習
 ～運動の特性にふれる楽しさを味わわせる授業～**

本校では、令和2年度より体育の研究に取り組み始め、令和3年度東京都小学校体育研究会研究協力校、令和3年度・4年度小平市教育委員会研究推進校として、児童が日常的に楽しみながら体を動かす取組（体育的活動：朝活タイム）や運動の特性に触れさせながら、個に応じて、多様な楽しみ方を学ぶことができる体育授業を積極的に実践してきました。授業では、特に学習計画の工夫、主運動につながる運動の工夫、教師の言葉掛けの工夫の3つの視点を中心に研究を進めました。ここにその成果を発表いたします。



◆日時 令和5年1月20日(金)
 午後1時から午後4時まで
 (受付開始 12:40～)

12:40	13:00	13:30	14:15	14:30	14:55	15:05	15:55	16:00
受付開始	朝活タイム	授業公開	移動	研究発表	指導講評	講演	謝辞	

◆内容
【公開授業】

時間:13:00～13:20			
中学年	体育的活動(朝活タイム)	3年2組4組	校庭
時間:13:30～14:15			
低学年	ゲーム	2年1組	校庭(北側)
中学年	多様な動きをつくる運動	4年1組	校庭(南側)
高学年	器械運動	6年3組	体育館
けやき	ボールを使った運動やゲーム	けやき学級	けやき前中庭

【講演会】

演題 『これからの体育学習の在り方』
 講師 スポーツ庁政策課 教科調査官
 国立教育政策研究所 教育課程研究センター教育課程調査官
塩見英樹様

小平市立小平第十二小学校 校長 岩井 純一郎
 〒187-0032 小平市小川町1丁目464番地
 (西武拝島線 東大和市駅から徒歩15分)
 電話 042-342-1761 ファクシミリ 042-342-1760
 メールアドレス gakkou@12.kodaira.ed.jp



※2次元バーコードから学校HPをご覧ください。

令和4年度 東京学芸大学 “附属学校公開研究会・研究発表会”

地区	学校園	名称	開催日
世田谷	附属世田谷小学校	「学びを自分でデザインする」子どもを育む教育課程の創造（文部科学省研究開発学校指定研究第4年次*令和2年度名目指定）	令和4年10月29日（土）
	附属世田谷中学校	令和4年度公開研究会	令和4年 6月18日（土）
	附属高等学校	第21回公開教育研究大会	令和4年11月 5日（土）
小金井	附属幼稚園（小金井園舎）	研究協議会	令和5年 1月28日（土）
	附属小金井小学校	研究発表会	令和5年 2月 4日（土）
	附属小金井中学校	令和4年度教育研究協議会	令和4年11月18日（金）
大泉	附属大泉小学校	令和4年度研究発表会	令和5年 1月28日（土）
	附属国際中等教育学校	第8回公開研究会	令和4年11月26日（土）
竹早	附属幼稚園（竹早園舎）	令和4年度竹早地区幼小中連携公開研究会 「未来の学校みんなで創ろう。Project」	令和5年 1月20日（金）
	附属竹早小学校		
	附属竹早中学校		
東久留米	附属特別支援学校	令和4年度研究協議会	令和5年 1月27日（金）

研究の概要、日程等が変更となる場合がありますので、当該校のホームページで御確認ください。

各附属学校の公開研究会・研究発表会の概要

【附属世田谷小学校】

研究主題：「未来社会を創造的に生きる「学びを自分でデザインする子」を育成する、個に基づく「じぶんdeラボ」と、教科・学年を超えた協働的探究の「みんなdeラボ」の双方で駆動する教育課程及び学習環境デザインの研究開発。」（文部科学省研究開発指定校2年次） 新型コロナウイルス感染症の影響に鑑み、指定期間が1年間延長されました。今年度が2年次となり、「ラボ」の時間を本格的に実践し、さらに、新しい教育課程の検討を進めております。

【附属世田谷中学校】

研究主題：「情報活用能力を育むモデル単元の開発 - 資質・能力をベースとした教科横断による実践を通して -」

今年度より新たなテーマを立て学校研究に取り組んでいきます。副題については本校の特徴と研究全体の目標を受けて検討しています。研究を進めていくに当たり全体を前・中・後期に分け、段階目標も設定していきます。「情報活用能力」を切り口に、各教科の考える「深い学び」とは何かを共有しながら、その手だてと教科間連携の可能性を探り、実践研究や提案を行っていく予定です。

【附属高等学校】

研究主題：「学習評価」を軸としたカリキュラム・マネジメントー」

本校ではこの3年間「コンピテンシー・ベースのカリキュラム開発」という研究主題に継続して取り組んできました。教科ごとの「学びの本質」を見きわめつつ、資質・能力を育成する授業のあり方やパフォーマンス評価の方法を開発しています。観点別評価の導入など高等学校の現場に「学習評価」の改善が求められている今、本校が培ってきた指導と評価の方法を授業実践のかたちで公開しつつ、学校全体の教育課程を有機的なものへと高めていきたいと考えています。

【附属幼稚園（小金井園舎）】

研究主題：「人との関わりを通した幼児の学びを再考する」＜2年次（まとめ）＞

昨年度より「人との関わりを通した幼児の学びを再考する」をテーマに、幼児の人間関係に着目し、新型コロナウイルス感染症予防として密を避ける環境下においても幼児の学びを保証するための保育の計画、環境構成、教材、援助、評価などを考察してきました。また、新たな生活様式の中で学び合う幼児の育ちを捉え、教育計画の見直しを行いました。今年度はまとめとして、引き続き教育計画を見直し、内容の検討と修正を行います。

【附属小金井小学校】

研究主題：「こえる学びの拡張」

前研究テーマ『「こえる学び」を生む学習環境デザインの追究』の成果をさらに具現化すべく、昨年度より「こえる学びの拡張」というテーマを新たに掲げました。今年度は3年次研究の2年目となります。

エンゲストロームは「拡張的とは、学習活動の本質は問題になっているそれに先立つ活動の内的矛盾を表している諸行為から、客観的に、社会的に新しい活動構造を生み出すことにある。」と述べております。児童が教科の中で身に付けるであろう汎用的スキルに着目し、その力が教科を横断して発揮したり生活の場面で発揮したりすることを目指しています。

【附属小金井中学校】

研究主題：「拡張する学び」の実現～真正の学びの視点から～ <2年次（まとめ）>

本校は昨年度より、学習者中心の主体的な学びについて追究するために、実践研究を積み重ねてまいりました。各教科・領域の教育の目的や本質を見つめながら、生徒の探究的学びを支援する教師の指導法や評価法、生徒自身が学びを深める授業デザインについて実践し、その成果をもとにさらに改善し、一つの形を見出してまいりました。本研究は、「主体的・対話的で深い学び」という授業改善の視点について、さらに先を目指したものとなっています。

【附属大泉小学校】

研究主題：「新教科「探究科」の創設」文部科学省研究開発学校としての研究（研究開発指定5年間うちの5年目）

これから必要になる知識や技能、概念を新たに形成し、自らの可能性を考え未来に向けて行動していくための資質・能力を育成するため、6つの領域で構成された新教科「探究科」を創設します。社会科、理科、生活科、国語科、道徳科等の既存教科と、総合的な学習の時間の内容を統合して「探究科」のカリキュラムを構想し、その教育課程及び評価方法を開発します。

【附属国際中等教育学校】

研究主題：「学びの転移」を促す概念・文脈の活用 一国際バカロレア（IB）の教育システムを活かした探究学習一

本校では隔年で公開研究会と授業研究会を交互に開催しています。今年度は公開研究会の年です。昨年度の授業研究会における成果と課題をふまえ、上記の研究テーマに沿って校内研究を進めていきます。公開研究会ではその成果を発表し、協議会等を通してご参加の方々と問題意識や課題を共有していきたいと考えております。

【附属幼稚園（竹早園舎） 附属竹早小学校 附属竹早中学校】

研究主題：「未来の学校みんなで創ろう。Project」

本研究は、東京学芸大学主導の産官学連携プロジェクト「未来の学校 みんなで創ろう。PROJECT」の一環です。これは「10年後の学校モデル」を創ることを目的に、東京学芸大学、企業、教育委員会がワンチームで取り組む研究です。公開研究会では、新しい技術を取り入れた実践や10年後の学校像等について研究成果を提案させていただきます。

【附属特別支援学校】

研究主題：「一人ひとりの未来を支える生涯発達支援学校～健やかな心と体を育む支援をデザインする～」2年次

本校は幼稚部から高等部、さらに同窓生支援の若竹会を含む各ライフステージにおよぶ学びを大切にしてきました。今年度は卒業生調査の結果をもとに、在学中から将来を見据えた心と体の健康に焦点をあてた実践を行います。

サークル等活動紹介



練習の様子

一九四九年の新制大学スタートと同時に東京学芸大学卓球部が誕生し、本年七十三周年を迎えました。創部当時は四分校（小金井、世田谷、竹早、大泉）ごとに練習が行われ、総勢百名以上の部員数であったとのことです。

しかし、新型コロナウイルスの影響で大会の中止や課外活動の停止が相次ぎ、さらに二〇二〇年終わり頃には女子部員が一名になり、女子廃部の危機に陥りました。

二〇二二年現在、新入生が入部し、男子十二名（交換留学生二名含む）女子十名となり、再び賑やかな卓球場が戻ってきました。

卓球部は現在、関東学生卓球連盟において、男子は五部リーグ、女子は四部リーグに所属しています。

サークル等活動紹介 第五回 男子・女子卓球部

毎年、春と秋に開催されるリーグ戦でのリーグ昇格を目標に、日々練習に励んでいます。先日行われた二〇二二年度関東学生秋季卓球リーグは、男子五部Cブロック、女子四部Dブロック、ともに三勝二敗で全六校中三位という成績でした。惜しくも優勝・昇格することはできず、悔しさの残る結果となりました。結果を踏まえて、新たな練習法や心構えを改めて話し合い、最近の練習に取り入れています。選手同士、教え合っている様子も多くみられるようになりました。

卓球部の強みは、「仲の良さ」です。初心者もいれば、幼い頃からずっと卓球を続けている人もいます。学年も違えば、性別も違う人同士が、自主練習で打ち合う姿も当たり前のように見られます。隔たりなく、全員が心の底から卓球を楽しみ、学び合い、切磋琢磨している雰囲気です。

次の関東学生春季卓球リーグに向けて、OB・OGさんのご支援を受けながら、部員一同躍進していきます。

男子主将

竹内克宏（B類社会科三年）

女子主将

安齋七海（A類数学科三年）

今こそ新しい取組を

豊島区立要小学校 副校長 外山俊吾

「電気のつけっぱなしをなくそう」

これは、本校で行われているSDGs活動の中で、子ども達から保護者へ向けた提案です。ここ数年は、学校教育において、新型コロナウイルス感染症対策が迫られ、様々な活動に制限がかかるようになりました。しかし、今だからこそ、未来を生きる子ども達に必要な力を付けていくために、新しい取組が求められます。このSDGs活動もその一つです。

新しい取組を実施していくには、教職員の理解はもちろん、保護者や地域の理解も必要となります。その際に重要なことは、子ども達や教職員が前向きな姿勢で取り組むことができるようにしていくことです。経験したことがないことには、進め方や結果も見えず、不安になりがちです。このようなときの副校長の関わり方は重要です。大勢の人を巻き込み、企画や計画を楽しみ、その楽しみを子ども達と一緒に味わっていきけるようにしていかなければなりません。私は、そのための副校長としての役割は、大きく二つあると考えています。

一つは、教職員への働きかけです。

学校としてやろうとしていることを具現化するには、どうすべきかを考え、教職員へ役割を与えます。みんなで知恵を出し合う際には、それぞれの考えに触れる機会ともなり、ワクワク感にも似た気持ちで、教職員と楽しみながら企画しています。教職員が楽しむことができれば子ども達も楽しめません。初めてのことからこそ、子ども達と教職員が、同じ気持ちで取り組むことができると思っています。

次に、保護者や地域、関係諸機関との連携です。学校での取組を家庭でも行ってもらうこと、そして、地域の方々とも行っていく機会をつくらなければなりません。まずは、学校で子ども達が生き生きと取り組んでいる様子を見ていただいています。そして、年間を通してどのような活動ができるかを検討し、見直しをもって連携することができるよう計画をしています。

全ての活動には、成果と課題があります。成果はさらに高め、課題は次へのステップとして、子ども達のよりよい成長のために、今こそできること、今だからすべきことに目を向け、職務に邁進していきます。

自然体験を通して

東久留米市立本村小学校 副校長 佐藤有紀

校庭のすぐそばに湧水ポイントがある本村小学校。市内にある八十ヶ所以上の湧水からは、毎日約十万吨もの水が湧き出て、黒目川や落合川の流れになります。そんな環境は、児童にとつて絶好の学習の場になっています。

総合的な学習の時間や生活科では、目の前を流れる黒目川での活動が主だった本校ですが、新たに落合川の活動をとり入れたことで、教材の幅も広がりました。地域の「川クラブ」等の人材を生かし、実際に川に入り遊んだり、生き物の観察をしたりします。

「この川の始まりは湧水?」「落合川と黒目川の水温が違うのはどうして?」「子供たちからはたくさんのはてな?」が溢れてきます。

五年生の総合的な学習の時間「Go River」では、体験から生まれる言葉を重視して言語活動を展開しました。何度も何度も自然にかかわり、心が動かされた子供たちは、その良さや面白さを人に伝えたくくなります。体験と言葉を密接につなげて、学びのストーリーを作り上げていました。なかなか身に付かない言語能力を育成するうえでも有効な活動でした。

本校は様々な学力調査の結果から、基礎的・基本的な力が十分でないということが課題となっています。朝学習、家庭学習、夏休みの補習等、定着を図

るための取組をしているものの、まだ十分結果として表れていないのが現状です。「学校の学習はどんな役に立つの?」という問いも子供たちから聞かれています。学力向上のために、長期的な視点で、子供たちの資質や能力を高めるために何が必要かを考えていく必要があるのかもしれません。

そんな本校の子供たちにとって、生活科や総合的な学習の時間は、体験の中で問いを見出し、その問いを解決するために、どんな力が必要なのか、各教科を学習する意義を考えるきっかけともなっているようです。

自然体験を通して、課題を「探究」することが、「確かな学力」を育成することに繋がっています。



自然体験学習の様子

大きな希望を抱いて

港区立南山小学校 永井奏人

私は、学ぶことや自他の成長を実感できることに挑戦することが好きで、いつしか教員を志すようになりまして。幼いころから、世界の地図を見たり、歴史を調べたりすることが楽しいと感じ、社会科学をより深く学びたいと考え、東京学芸大学初等教育教員養成課程社会選修への進学を決めました。大学三年次には、感染症の拡大により新しい生活様式が余儀なくされ、オンラインでの授業が始まりました。世の中が混乱に包まれる中ではありましたが、四年間で多くのことを学ばせていただき、令和四年三月に卒業しました。現在は港区立南山小学校にて四年生担任として勤務しています。

学部生時代の私は、地理学教室で椿先生の文化地理ゼミに所属し、歴史地理学と知覚環境について研究しました。研究は、フィールドワークや史料の調査を通して、深い学びについて考えるきっかけにもなりました。研究室における学友との取組は、まさに「主体的対話的な深い学習」の実践でした。常に事象に対して問いをもち、学び続ける姿勢でいることは、教員としての自己研鑽を励む糧となっています。

また、男子ラクロス部に所属し、主将として活動を行いました。部員と対話を重ねながら、よりよいチームを創りあげることが、学級づくりにもそのまま生かすことができています。感染症の拡大により、先がみえない中でよりよい選択をしていくことは、大きな力になりました。見通しをもち、全体を統率しながら、それぞれの考えを汲み取って、判断することは学級経営を行う大きな自信につながっています。

南山小学校では、体育主任として、初めての体育発表会に取り組みました。分からないことが多い中でも、学部生時代につけた力を生かして、無事に成功させることができました。終わった後、子供たちはやり切った表情を見せており、私自身も大きく成長したと実感することができました。子供たちのキラキラした笑顔や精一杯に踊る姿を見て、これまでの努力が報われたような気がしました。

今年度は初任として学ぶことばかりですが、今の職場でも成長させてくれる先生に恵まれたと感じています。これから子供たちとともに自分自身も日々成長していきたいと思えます。

変わりゆく時代と共に

西東京市立碧山小学校 岡本昌紀

私が教員になったのは四年前である。その頃は平成から令和へと変わり、新しい時代や環境に胸が躍る気持ちだった。四月には遠足、五月には運動会と、迫りくる行事に身を任せ、先輩の背中を追い、なんとか教育現場に慣れるために慌てふためいていた日々を懐かしく感じている。一年目の学期には新型コロナウイルスが世界的に流行し始め、卒業行事の縮小や年度末行事の中止など、その影響が教育現場にも及び始めた。今まで当たり前のように行ってきた行事や、給食などの日々の生活様式さえ根底から見直すこととなり、やっと環境に慣れてきた我々新任者にとっては、また新しいスタートを切るかのような心境であった。

感染症対策が当たり前となった日々にも慣れ、やっと一年間の見通しを立てて新年度を迎えることができたのはまだ昨年度のことである。そんな私がここ一、二年で変わってきたと思えることがいくつかある。一つ目は授業に対する考え方である。これまで授業は「教える時間」として自分が考える形へと誘導することが多かったが、最近では子どもの声から授業を組み立て、

「考えさせる時間」にすることができるようになってきた。子どもたちの様子や態度にも変化が感じられ、他の先生から「よくなったね」と声を掛けてもらうことがとても励みになっていく。授業で学級を引っ張るとい言葉があるように、自分も授業の質を上げ、若さに頼らない学級経営をしていきたい。一つ目は、研究授業での学びである。校内研や市小研で研究授業を見る機会はたくさんある。その後行われる協議会では、「よかった」以外の感想が思い浮かんだり、自分の意見に自信をもてず、ぼんやりしてしまったりすることもあった。また、講師の方の講義についても、これまでは言葉一つ一つの意味をおさえることに一杯で、話の内容を理解することが難しかった。しかし最近では、講義内容について自分の体験と関連させることで新しい発見や反省点・改善点が見つかるなど、講義を、より有意義な時間にすることができていく。

これからも様々なことを吸収し、色々な武器をもった教員を目指して精進していきたい。

今度こそ新年祝賀会

総務部長 青山 直志

コロナ禍において過去二年間、新年祝賀会を開催することは出来ませんでした。そして、今年もインフルエンザと共に第八波が訪れています。しかしながら社会全体を見渡すと、スポーツイベントが開催され、最小限の制限に留めた観戦が行われる等、日常を取り戻す動きが活発になってきたことも事実です。

令和四年十一月十一日(金)第三回支部長会をホテル東京ガーデンパレスの平安の間で行いました。会場参加とオンライン参加のハイブリッド型会合において、令和五年一月二十二日(日)の正午から、ここ東京ガーデンパレスにて新年祝賀会を開催予定であることをご説明しました。平日夜ではなく、休日の昼であること。バイキングではなく、パーティーションを施したテーブルに着座する形式で行うこと。各支部からの参加人数は三名以内とすること等が主な変更点です。

現役の先生方におかれましては宴席への参加が叶わない場合も多いことは十分に承知しているつもりです。しかし、次年度に繋ぐチャレンジをしなれば本会同窓生の横の繋がりと東京学芸大学本体との縦の繋がりがぶつかりと切れてしまうのではないかと、という不安を我々本部役員は常に感じています。

いつの日か、あの新年祝賀会の賑わいを取り戻せるよう、会員の皆様のご理解とご協力を賜りたいと存じます。

会費納入のお願い

会計部長 高野 剛一

日頃より会計部の活動に協力いただき、ありがとうございます。

会計部では九月までの収支を中間決算としてまとめました。九月末で正会員費は四百二十八名の方から、賛助会員費は百四十四名の方から、終身会員は十名の方から納入がありました。また事業収益として、獅子の代金が六百五十三冊分、納入されました。納入してくださった支部の支部長先生や会計担当の先生方には御礼申し上げます。

支出としては、公益事業として広報誌「學藝」の発行、獅子・子獅子の発行、ホームページの更新等の費用を支出しました。また、共益事業として、管理職名簿の印刷等の費用を支出しました。また、今年度は、東京学芸大学内の研究等で行われている「Shop Botで森をいかす」という活動に対して、十萬円の寄付を行いました。

依然として続くコロナ禍を踏まえ、例年に比べて会費納入の時期が遅れている支部が多くなっております。是非、早めの会費納入をお願いいたします。

皆様の会費が充実した研修会や講演会の活動へとつながります。今後とも皆様のご協力をよろしくお願いいたします。

研修部活動報告

研修部長 貝原 俊明

研修部の事業について、概要と今後の予定について報告いたします。

◆面接研修会について

本年度は、ちょうどコロナ感染者も減ったことから、無事、面接研修会を開催できました。九月十一日に江東区立東陽小学校に於いて行われ、校長選考三十一名(小学校二十六名、中学校五名)、A選考一名の受講者がありました。指導には研修部員の他、三十三名の協力してくださる校長先生方も加わり、午前と午後に分けて、手厚く指導・助言ができました。一人でも多くの合格者が出ることを期待しております。

◆「子獅子」の頒布

昨年度、大幅に内容の改定とA4判に変更となった子獅子が大変好評で、様々などころから引き合いが来ております。本年度は東京学芸大学三年生と指導される先生方に五百五十部配布しました。その他、希望される学校関係者に一部六百円で販売しています。

◆「獅子」の編集・送付

獅子第四十四集の編集作業に取り組み始めました。新しい情報なども加え、令和四年三月中旬には、各支部長先生の所属校宛に送付いたします。ご期待ください。

名簿の訂正と次年度の準備について

調査部長 小川 優

皆様のご協力のおかげをもちまして、九月に「令和四年度管理職等名簿」が完成し、学芸大学同窓会ホームページ上にPDFで掲載することができました。いつも調査部に大きなご協力をいただき、心より感謝申し上げます。今後、もし訂正・変更等の情報がありましたら、調査部長までお知らせください。随時最新の物に名簿を修正していきます。

今後の作業ですが、来年二月に、各支部長様に最新の支部の名簿をメールで送信する予定です。令和五年度の「管理職等名簿」を作成する際、これを修正してご提出いただければ、作業も容易になると思います。どうぞよろしくお願いたします。

また、支部長の皆様には、お願いしたいのは、終身会員の名簿の確認・点検です。誠に申し上げにくいのですが、二十八年卒以前の皆様は、ご高齢で物故者やご逝去、ご不明の方もおられます。「その他」の欄にご逝去の年を記載し、次の年にはお名前を名簿から割愛していく作業が必要だと思っております。

終身会員の登録の仕方は、希望者が支部長から申込書を受取り、ご自分で手続きをする流れになっています。詳しくは管理職名簿の巻末に掲載しております。また、終身会員への名簿の連絡は各支部が行うこととなっております。名簿をご希望の終身会員の方は所属支部に連絡を取り、ご相談ください。

我らのキャンパス ～ 第70回 小金井祭 ～

11月5日（土）から7日（月）までの3日間、3年ぶりに小金井祭が対面で開催されました。今年のテーマは「富學百藝」。葛飾北斎作の「富嶽百景」に大学名を入れたものです。小金井祭が「學」びに「富」み、「百」以上の「藝」が飛び交う場になってほしいという願いが込められています。

今年的小金井祭は感染防止のために入れ替え制で実施しました。飲食物を扱う店もなく、規模は縮小されましたが、ステージ、テント、教室などでのイベントは、どこも小さな子供を連れた親子連れで、たいへん賑わっていました。子供たちが楽しみながら学ぶ場をつくる、教員養成系大学らしい大学祭でした。



正門



ウッドデッキ



講義棟



小ステージ



テントゾーン